

市政ニュース

豊岡市職員の南極派遣決定

南極第53次南極地域観測隊長・副隊長来訪

第53次南極地域観測隊(越冬隊・平成23年度)に市職員を派遣することになりました。12月10日、同観測隊長の山岸久雄さんと副隊長の土井浩一郎さんを本市に招き、中貝市長の思いを伝えるとともに派遣職員候補者との顔合わせを行い、その後記者会見を行いました。

中貝市長は、「南極は、植村直己さんが冒険家として夢を果たしたかった場所であり、地球環境問題が端的に表れる場所です。その地で職員が研さん、経験を積み、帰ってきてからは市の環境政策の推進役になってほしいと思っています。また、職員が南極に行ったことで、子どもたちが南極を非常に近い場所に感じ、冒険心がかきたてられれば、植村さんの故郷としてこんなにうれしいことはありません」と話しました。

また、南極で培ったものがどのように生かされるかという記者の質問に、山岸隊長は「気象の観測なども経験でき、どのようにして地球の環境をモニターしていくのかを目の当たりにでき、厳しい自然環境下でどのように種が維持されているかということも、コウノトリ野生復帰の取組みの参考になると思います。さらに、越冬隊のコミュニティの運営なども分かります」と答えました。

記者会見の様子は、市のホームページに掲載しています。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/129223605648/index.html>



▲山岸隊長(中央)、土井副隊長(右)、市職員をよろしく

「議場お別れセレモニー」および「市役所本庁舎の「さよならセレモニー」を開催



▲市のマスコットもそろって、議場で記念撮影

市役所の新庁舎の建設に伴い、本庁舎3階の現議場が閉鎖されるため、12月17日の本会議終了後、「議場お別れセレモニー」を開催しました。

この議場は、完成した昭和27年以来58年間使用し、幾多の論戦が交わされてきました。セレモニーでは、木谷敏勝市議会議長、中貝市長のあいさつの後、スクリーンで昔の議会風景などの写真を鑑賞し、芝地邦彦市議会副議長による



▲議場の鍵の返却

万歳三唱や市歌斉唱などを行いました。最後に木谷議長

が議場を閉鎖し、中貝市長に鍵を返却しました。

また、12月28日には昭和2年完成の本庁舎の「さよならセレモニー」を開催しました。

セレモニーでは、歴史年表により市役所本庁舎と豊岡市の歩みを振り返りました。

中貝市長と木谷議長が豊岡市旗と国旗の降納を行い、中川副市長、真野副市長は「豊岡市役所本庁舎さようなら!」「83年間ありがとう!」の懸垂幕を掲げました。

現本庁舎は、新庁舎建設後、1、3階は交流ゾーン、2階は新議場となる予定です。

市のマスコット「コーちゃん」「オーちゃん」「玄さん」も参加し、職員と一緒に感慨深げに庁舎を見つめていました。



▲83年間活躍した本庁舎に「ありがとう」

主な市政の動き

- | 12月 | 1月 |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 10日 | 3日 |
| 南極地域観測隊長・副隊長来訪 | コウノトリ文化館新春特別開館(4日) |
| 16日 | 4日 |
| JAXA訪問・コウノトリの写真贈呈(東京都) | 市役所仕事始め式 |
| 17日 | 6日 |
| 議場お別れセレモニー
・高校生等を対象とした企業見学会 | 豊岡市賀詞交換会 |
| 21日 | 9日 |
| 平成22年豊岡市政10大ニュース発表 | 豊岡市消防本部、出石、10日・但東) |
| 22日 | 11日 |
| 第1回豊岡市高病原性鳥インフルエンザ警戒本部会議 | 豊岡市成人式 |
| 28日 | |
| 市役所仕事納め式
本庁舎「さよならセレモニー」 | ニュージールランド・ルアペフ地区・タウマルヌイ高校生来訪(15日) |

市内にある優れた企業を知って

経済成長戦略プロジェクト「高校生等の企業見学会」開催

市では、経済成長戦略の重点施策として、15の戦略プロジェクトを展開しています。12月17日、プロジェクトの一つで労働力確保支援策として、「高校生等を対象とした企業見学会」を開催しました。初めての取り組みであるため、試験的に豊岡総合高等学校、石高等学校の2年生と教師、但馬技術大学の1回生と教師を対象に実施しました。

市内の魅力的な企業を訪問することで、就労に対するイメージを持ってもらい、市内企業への就業および定住を促進することを目的としています。当日は、豊岡中核工業団地企業プレゼンセンターで、(株)ビトールアンドデー代表取締役の美藤 定さん(まこと)から講話を聞いた後、同団地内にある(株)オフテクス、東海バネ工業(株)を見学しました。生徒は、予想以上の規模に



▲中核工業団地にある東海バネ工業「啓匠館」で説明を聞く

姉妹都市との国際交流 ニユージーランド・ルアペフ地区・タウマルヌイ高校生来訪

1月11日から15日まで、ニユージーランド・ルアペフ地区から高校生ら9人が来訪しました。また、市内のさまざまな施設も訪問しました。コウノトリの郷公園ではコウノトリの野生復帰、生物多様性の取組みや本市の環境施策を学び、植村直己冒険館ではロッククライミングにも挑戦しました。

同区は、旧日高町の姉妹都市で、新豊岡市も提携を継続し、交流が続いています。滞在中は、ホームステイを通じて、日本の家庭生活を味わったり、日高小学校を訪問し、全学年と交流するなど、懇親を深めました。また、市内のさまざまな施設も訪問しました。コウノトリの郷公園ではコウノトリの野生復帰、生物多様性の取組みや本市の環境施策を学び、植村直己冒険館ではロッククライミングにも挑戦しました。さらに、出石城跡や出石永楽館など歴史の香る街並みも訪れ、出石そば打ちや出石焼絵付け体験など、本市のさまざまな魅力を体感しました。



▲日高小学校の児童と楽しく交流

中貝市長の徒然日記 39

大雪とジオパーク

正月早々、大雪です。職員と建設業の皆さんは、正月返上で除雪でした。が、雪はずんずん積もり、その上を車が通って圧雪になり、各地の交通が大いに乱れました。ご迷惑をお掛けしました。ところで、この雪は一体どこから来たのでしょうか。冬。大陸から冷え冷えとした季節風が吹き寄せます。日本に近づく対馬暖流と遭遇し、その温度差で大量の水蒸気が立ち上ります。季節風は山脈とぶつかると上昇気流が発生し、舞い上がった水蒸気は上空で冷やされ、雪となって日本海側に降り注ぎます。はるか昔、日本列島はアジア大陸にありました。ところが2500万年ほど前、巨大な力が働いて、日本列島は南に下がり始め、現在の位置にきました。この場所は、前線が停滞しやすい場所であったため、日本に大量の雨がもたらされることになりました。そして、雪、です。雨も雪

も水です。水は命の源です。大量の水と大量の日光によって光合成が活発に行われ、豊かな植物相が生まれました。植物は動物を支えます。日本の形成と対馬暖流は日本の生物多様性をもたらしました。NHKの番組でこんな話がありました。西から東に地球を回る偏西風が、6月ごろはヒマラヤ山脈とチベット高原に邪魔されて山脈の南側に回り、インド洋と太平洋から水蒸気を集め、雲とともに日本に降ります。梅雨です。もしヒマラヤとチベットの高さが半分になれば、日本の梅雨は消える。

ヒマラヤもチベットも、4千万年ほど前、南からやってきたインド大陸がユーラシア大陸にぶつかって地面を押し上げ、できたものです。何という壮大なドラマ。何百万年、何千万年の時間の中で目の前のものを見る、それがジオパークの視点です。

